

■米国：オバマ大統領、就任式演説でエネルギー・地球温暖化にも言及

オバマ大統領は2013年1月21日、2期目の就任演説を行い、エネルギーや地球温暖化問題に言及し、積極的に取り組む姿勢を示した。大統領は演説で「我々の義務は米国民自身だけでなく全世界の繁栄のためであり、地球温暖化の脅威に立ち向かう。それに失敗すれば子供たちや将来の世代を裏切ることになる。科学的な判断を否定する者がいるが、だれも早魃や暴風などの影響から逃れることはできない」と地球温暖化対策の必要性を訴えた。さらに「持続可能なエネルギー供給への道は長く困難を伴う。しかし、米国はこの変化に抵抗するのではなく主導し、新しい雇用と産業を生む技術を他の国に譲るべきではない」と述べ、エネルギー分野で主導的役割を果たし、経済活性化と環境保護の両立を図るべきとの考えを示した。